

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290500030		
法人名	有限会社 シーシー商会		
事業所名	グループホーム のどか		
所在地	千葉県緑区辺田町365番地1		
自己評価作成日	令和5年2月21日	評価結果市町村受理日	令和5年6月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和5年5月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設理念を念頭に置き職員全員が努めています。 利用者一人ひとりの健康状態を毎日チェックし、変化があれば直ぐ医師に連絡し対応の指示を仰ぎ早目の受診を心掛けています。 食事の提供も同様に健康状態、栄養面や食べやすさ等に気を付け家庭的な料理を提供できるよう努めています。 年間行事等はコロナ禍の為、現在は難しい状況ですが、コロナ収束後はボランティアの方々と様々なイベントを企画することが出来るよう支援して行きたいと考えております。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「安心と尊厳のある生活の支援」という理念のもと、日常生活の中で利用者の思いを傾聴し、寄り添いながら支援をおこなっている。コロナ禍においては感染症対策について研修をおこない、職員間で共有しながら、感染防止に取り組んでいる。また、身体拘束をしないケアを実践しており、定期的に研修をおこない職員の意識付けを図っている。近隣の協力を得ることで、玄関の施錠はしていない。食事は地元の食材を取り入れ、利用者の状態に応じて、軟飯、刻み、トロミなどの食事を提供している。利用者が自力で摂取することで、食事が楽しめるよう支援している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関の目に付きやすい所に掲示し安心と尊厳のある生活を支援するため管理者と職員はその理念を共有し実践している	「安心と尊厳のある生活を支援する」という理念は玄関に掲示している。職員は出勤時に確認しており、利用者の話を傾聴し、安心した生活が送れるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前は自治会に加入し夏祭り等に利用者を連れて参加していたが、現在はコロナ禍の為に地域行事への参加は中止している。管理者と民生員が交流し情報交換している	コロナ前には、地域の祭りや、寺の節分行事に参加していた。民生委員とは、介護が必要な地域住民や、行事の情報交換をおこなっている。今後は、日舞や歌のボランティアに訪問してもらうことを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアについて実践を通じて理解や支援の方法を地域の人々に伝えられるよう努めていきます		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、外部との怠慢での会議は困難。感染症対策や状況、利用者が過ごしている様子を交流のある民生員伝え、そこでの意見をサービスの向上に生かしている	コロナ前には、民生委員、町内会会長、地域包括支援センターなどが参加して運営推進会議を開催していた。会議では、台風などの災害時における情報収集・連携について意見交換をした実績がある。	コロナ禍においても、書面での会議の開催が望まれる。利用者やホームの状況などを、会議参加者全員に発信し、意見をもらうことを検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者と日頃から管理者とケアマネが連絡を取り利用者の状況を報告し相談やアドバイス等の協力関係を築くように取り込んでいる	市とは利用者の状況報告や介護保険事務などで連携している。地域包括支援センターとは災害時対応について情報を得るなど、協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束ゼロのマニュアルを元に職員研修を実践し、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解して、玄関の施錠も含めて身体拘束ゼロケアに取り込んでいる。職員には利用者の気持ちに寄り添う様に話している	身体拘束適正化のための指針を整備し、研修を通して、身体拘束をしないケアの実践に努めている。地域連携により、玄関の施錠はしていない。不適切なケアはその場で注意し合い、職員全員での事例検討もしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止関連法についてマニュアルを元に施設全体で虐待を見逃さない取り込みにより注意を払い防止に努めている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	管理者職員は制度を学び必要性のある利用者については地域包括支援センターに相談及び話し合いをして活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が利用契約書や重要事項説明書の説明を行い利用者、家族の不安や疑問点について尋ね、再度十分な説明を行い理解、納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、の意見、要望は管理者、職員が訴えや要望を日常生活の会話の中から聞くことがあり、家族の意見は電話や口頭で聞いている。	利用者とは日々の会話で、家族には電話等で意見・要望を聞いている。粥ではなくご飯を食べたいという要望を受け、利用者の身体状況に配慮しながら軟飯を提供するなど、柔軟な対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見や提案を業務の間や食事の時に聞いている。その事について必要があれば他の職員とも話し合いの機会を設け反映させている	日頃から職員の意見や提案を、聞き取るように心がけている。職員の提案から、夜間帯も利用者が好きな時に飲めるように、麦茶をペットボトルにいれて居室に持って行くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境を作り各自がやりがいや向上心を持って働ける職場づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修でケアの向上を図りコロナ化で外部研修は難しくなっているが働きながら技術や知識がしっかり身につけられるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で同業者の交流は難しい状況ですが、今後の情報情報交換を行いネットワークづくりに努めている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自前に利用される方のアセスメントをしっかり把握し本人の困っている事、不安や要望を傾聴し本人が安心して生活できる信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入する段階でご家族の困っている事不安や要望等を傾聴し信頼関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入する段階で本人・ご家族がまず必要としている状況を把握し必要とされる支援を見極め提供できるように務めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と生活を共にする者同士支えあう家族のような関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切にしながらご家族同様共に利用者を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で対面での面会は出来ませんが、ガラス越しでの面会や電話での関わりができるように支援に努めている	コロナ禍を受け、居室への立ち入りは禁止し、ガラス越しでの面会をお願いしている。利用者が希望すれば、家族や友人・知人に電話をする支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し仲良しのお仲間とお話ができたり、風船バレーをリビングで皆さんと楽しんだり、機能維持向上の為軽運動をして声掛けしながら支え合えるような支援に努めている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会に来られた方々と楽しく過ごせるよう配慮している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話合いの中で一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。又、利用者の中には言語表現の困難や難聴の方がおり、思考表示を見逃さないよう必要な支援をしている	日常生活の中で利用者の話を傾聴しながら、思いや意向を聞き取っている。難聴の利用者は、筆談や表情などで把握している。園芸が好きな利用者には、育てる楽しみがもてるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴等を本人やご家族から聞き取りフェースシートを作成して情報把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の過ごし方から心身状態、状況を把握し記録を活用しながら現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアについて変化があった時やケアプラン更新時には支援経過やモニタリング等を参考にして担当者会議を開催し必要な関係者と話し合い意見交換を反映させ現状に即した介護計画を作成している	利用者ニーズをアセスメントし、担当者会議で意見交換の上、介護計画を作成している。モニタリングは毎月実施している。介護計画は職員がいつでも確認できるようファイルしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に日々の様子や実践・結果等を記入し職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応して柔軟な支援やサポートに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で困難な状況が続いていますが地域の協力の下で地域の行事やボランティアの方々の催事に状況を見ながら参加できるよう努めています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々のバイタル測定と健康観察を記録をして、受信時は職員も同席し状況提供にて、信頼のおけるかかりつけ訪問医により適切な医療を受けられるように支援しています	利用者は月2回、かかりつけ医の往診を受けている。泌尿器科など専門医の場合は職員が同行支援している。かかりつけ医とは、昼夜を問わずいつでも連絡が取れる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で利用者の健康管理に努め情報を伝え適切な受信が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係視野に情報交換や相談をし利用者が安心して治療できるように計らい早期退院できるように協力を努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた研修を行い医師と連携し、重度化した時はご家族に早い段階で説明を行い訪問医と相談しできる限りの対応をしている。ご家族に終末期の対応を事前にどうするか確認し、同意書を得られるように取り組んでいくように努めます	入居時に終末期の対応はおこなっていないことを説明し、了承を得ている。食事が摂れなくなってきたり、著しく体力が低下してきた段階で、かかりつけ医の判断により、再度、利用者や家族の意向を確認している。	重度化や終末期におけるホームの対応について、口頭だけではなく文章化して、利用者、家族に説明することを検討されたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の訓練や研修を行い迅速な対応ができるよう実践力を身に付けるよう取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍の為、消防署には施設移動に伴い書類申請をしているコロナの終息を見て開催に向けて取り組んでいる。避難経路は階段等の段差もなく全棟渡り廊下で繋がっており避難できやすい設計になっている	コロナ禍前は消防署立ち会いのもと、利用者を避難場所に誘導し、点呼するまでの流れを確認していた。昨年度は職員会議内での確認に留めている。今後は地域との協力体制構築を検討している。	新型コロナ収束に向け、利用者も参加した避難訓練の実施、地域との協力体制づくりをおこなっていくことが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの利用者の話を傾聴し尊重した声掛けをしている。排泄介助では周りの目を気遣い羞恥心に配慮した声掛けプライバシー保護に努めている。呼称は基本さん付けとするなど尊厳を大切にしている	利用者の話に常に耳を傾けることを心がけている。声かけは名字にさん付けで呼びかけている。トイレ誘導は小声にするなど羞恥心に配慮している。個人情報保護について職員に周知されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思表示を見逃さない傾聴し一人ひとりの希望が叶えられるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの趣味や思いを把握し、その人のペースで穏やかに過ごせるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや好きな洋服を自分で選んでおしゃれができるように支援している。男性の方は髭剃りを自分で行っている。困難な方は介助にて清潔維持に努めている。訪問理容も取り入れ支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事形態に合わせ、軟飯、おかゆ、刻み、トロミで提供し、自力摂取にて食事が楽しめるようにしている。ひな祭り、節句等の行事にはちらし寿司や甘味を提供して楽しんでもらっている	利用者個々の咀嚼力、嚥下力に合わせ、刻みやとろみ付きなど、さまざまな食形態のメニューを提供している。献立には野菜を多く取り入れ、栄養バランスに気を配っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調や現状を把握し、食事量、食事形態水分量を考慮し適切な食事提供が出来るよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し口腔内の異常や誤嚥性肺炎予防にも努めている。自力で出来る人には行って頂き確認している		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握したうえで声掛け誘導してトイレ内で排泄できるよう支援している	トイレで排泄ができるよう支援している。車いす利用者の場合も、廊下の手すりにつかまって立ち上がりや、足ふみなどをおこなうことで、立位が保持できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの水分摂取量に気を配りチェック表を用いたり無理のないように軽運動の声掛けをしながら実践して便秘の予防と健康管理に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としている。その日のバイタル測定を確認して状態に応じてシャワー浴や清拭に変更する時もある。自立して入浴している方にはゆっくりして頂くが見守りにて安全を確保している	週2回午前中に実施している。香りのよい入浴剤を使用して、リラックスしてもらっている。長湯を好む利用者には、ゆっくりと湯船に入ってもらうなど、入浴が楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室やリビングで自由にくつろぎで頂き、夜勤は室温管理や入眠状態を確認し安心して眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬情報に基づいて服薬時の見込みまで確認し誤嚥や誤薬防止にも職員全員で取り組んでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話などから個々の希望に添った気分転換や楽しみごと見出し。観葉植物を育てる人、読書を楽しむ人、塗り絵をされる人、楽しみごとの支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出困難な状況ですが、終息傾向にあり状況を見て近くの神社や花見ドライブ等、戸外に外出ができるよう取り組んでいきます	コロナ前には、散歩に行ったり、商業施設での買い物やイベントなどに出かけていた。コロナ禍の現在は、天気の良い日にホームの庭に椅子を持ち出し、日光浴などで気分転換を図るようにしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できない利用者が多い為、事務所で管理を行っている。希望により、状況を見て買い物支援が出来るよう取り組んでいきます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて見守り必要な支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に季節の花や年間行事の製作を張り出して飾って季節感を取り入れて、ソファでゆっくりテレビを見てくつろいだりできる雰囲気づくりに努めている	くつろげる空間であることを心がけている。リビングには3か所にソファを置き、利用者は好きな場所でくつろぐことができる。正月飾り、端午の節句、紅葉等の貼り絵などを飾り、季節が感じられるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテレビやソファなど設置しパズルや折り紙、読書など自由にくつろげる空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にテレビを設置し個々の趣味に合わせて居室に観葉植物の水やりをして育てている。読書好きな人には簡易テーブルを提供して過ごしやすく過ごせるよう工夫している	利用者は使い慣れたタンスや、冷蔵庫などを持ち込み、その人らしい居室となっている。室温に配慮しながら、定期的に空気を入れ変えている。また、天気の良い日には寝具を干し安眠できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力量に応じて安全に自立した生活が送れるよう家具や整理ケースの配置を考え工夫している		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと